



のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』

わたしの『わひき』

佐藤 政利

縁あって、二十数年前、親しい友人の佐藤氏から「さつき」を数本戴くことができ翌年六月、見事な花を見ることができました。

花は、赤・白・紫・とき色など多数あり、また、底白・絞り・覆輪・爪白・ぼかし・爪紅・玉斑・半染・大絞り・小絞り・堅絞り・白絞り・伊達絞り・吹き上げ絞り・微塵絞り・飛び入り絞り・覆輪絞り・蛇の目絞りなど、これまた咲き方は多種あり、家内はもちろん、隣近所の人や来訪者など皆さんが感動し、感嘆しておりました。もちろん、私も今までに見たこともない、一本の木でありながら、咲分け、色の美しさなど芸のこまやかさに感動し、「さつき」の虜になりました。

爾来二十余年、朝な夕なの水やり、加肥、消毒、針金かけなど手入れの日々を送り、私の生活の大きな部分を占めながら、今までできたのは、ほかならぬ「さつき」づくりでありました。

この間、気のあった良き仲間と共に、「市民に親しまれるさつきづくり」を合い言葉に、さつき展も二十五回、市役所ロビー展も二十回を数え、文化祭への出展も二十数回を数えるに至りました。こんなことの中で、他方、さつきづくり仲間と共に、旅行に、研究会に、懇親会にと、考えも及ばなかった、素晴らしい多くの仲間と親しいお付き合いを結ぶこともでき、存外の楽しさを戴き、これまた、嬉しく、望外のことと思っております。

振り返ってみると私も、水石に魅せられて、大先輩と野呂川まで足を延ばして石集めをしたり、あるときは、鎌倉彫りや拓本とりに凝ったりして、三日坊主といわれながらも、今日は、刻字教室、写真教室を続けるかたわら生涯の趣味として、「さつき」に打ち込んでおります。

ところで、「さつき」づくりは、子どもへの教育にも通じ、手を抜くと乱れ、入念な手入れで整い、その姿は、私の心を映しているかのようにあります。これから立派な木づくりを目指して日々努力したいと思えます。



『陶芸の楽しみ』

重原 安雄

井倉婦人学級のメンバーは、七十才代、八十才代の十五名程度で形成され、各種の学習や、市の保健婦を招いての健康に関するお話、健康体操、料理実習、手芸などを井倉集会所で実施している外、本年十月五日には、市内七福神めぐりなども計画し、老いても元気に活動しようとして毎月事業を実施しています。

陶芸は、毎年一回九月頃に実施しています。これは、山本さんの家にある焼き窯を利用して、平成四年から始め、本年で十年目に当たります。

作品を作るのは集会場で、楽しく話し合いながら、午前中に手びねりで生活に役立つものを作ります。午後から削り仕上げをして第一日は終わります。約二週間乾燥させてから素焼きをします。第二日目は、山本さんの物置を利用した作業場で、みんなで工夫しながら釉薬がけをして、本焼きをします。第三日目は窯出しの後、鑑賞会をしてそれぞれ自分の作品を持ち帰ります。

陶芸を始めたときから、生活に役立つものをという考え方で作品に取り組み、家の食事の時には、お膳の上で自分の作ったお皿やどんぶりなどに野菜や漬物などを盛り付け、湯飲み茶碗も自作のものは手放せなくなり楽しんでいきます。また、玄関に自作の花瓶を置いて折々の花を飾って楽しんでいきます。

また、十月頃には禾生第一小学校の五年生の陶芸の勉強をお手伝いして、年寄りとお児童との交流を楽しむ機会も持つており、小学校の作品展の折には婦人学級での作品展も展示して、賑やかな楽しい展示会となります。

余生を楽しく過ごすのに、陶芸は欠かせないものとなりました。

